

同一地域 4 戸で同時期に発生した牛ボツリヌス症：

岡山県岡山家保 菱川創太、金谷真澄

令和 5 年 4 月、5 km 圏内の 4 戸（肉用牛一貫 2 戸、肉用牛繁殖および酪農場各 1 戸）で 7 日間に連続して D 型牛ボツリヌス症が発生。全農場において、発症牛・同居牛糞便、環境材料（残飼、水槽、牛床、野鳥糞等）のいずれかからボツリヌス毒素遺伝子を検出。全農場で発生時にカラス飛来を認めたことから、本症発生へのカラスの関与が疑われた。死廃率は各農場でばらつきがあり 4.0～26.7%であった。全農場においてこれまでに本症の発生及び本症ワクチンの接種歴はなかったが、ワクチン全頭接種、環境の清掃・消毒および野鳥の侵入防止対策により収束。その後 10 月に環境検査を実施した結果、3 戸から毒素遺伝子が検出され、飼養環境にボツリヌス菌の残存を確認。ワクチンでは感染と排菌は防げないため、周辺農場や環境への菌の拡散防止には、ワクチン接種のみに頼らず、継続的な清掃・消毒の徹底および野鳥の侵入防止対策による環境中の菌量低減が重要。